

みんなの学校準備会議（第9回）

日時：2017年12月10日 10時～12時

場所：浦和スポーツクラブ 事務所

出席：高橋、石井、長島、西澤、斉木、井上、野辺、深水、小野崎

1. あいさつ 高橋

2. ふりかえり

3. 協議

（1）開校式について

■決まったこと

日時 2017年4月1日（日）10時～12時

場所 領家公民館体育室

内容 基調講演 候補 ババラボの小峰さん

寺子屋の大場さん

学科（学部）の紹介～グループディスカッション

（出された主な意見）

- 地域での支え合いなどの大切さを話せる有識者が良いのではないか
- 他地域で類似の活動をされている方のお話しではどうか
- 取組は少し異なるが、部分的には類似した活動となっている方々のお話しもあるのではないか
- 活躍の場所づくりや居場所づくりをされている方ならばいいのでは
- 開校式に参加してくれた人にカリキュラム作成に関わってもらうことにしてはどうか
- 学科（仮称）を立ち上げたい人が、そこで説明をして勧誘するようなことが良い
- 開校式のお知らせの時点で、候補になる学科は示すことが必要

(2) 事業について

■決まったこと

- ・ 総合コースと専科をつくる
 - 総合コースはまちづくり全般を学ぶカリキュラムを組み、いろいろな話題について学び、最後に自分たちでワークショップを行い、取り組んでいくことをそれぞれ考えてもらう
 - 専科は、関心のあるテーマで集まった数名を核に仲間を増やしながら、学び合いをしていく。(健康、栄養、地域福祉、歴史・・・ 等々)
- ・ 専科で有識者を招いた学びの場に、うらわカフェを活用するのと良い
- ・ 今回は当初の専科の種類を決める

(出された主な意見)

- まちづくりコースは、既存の公民館の講座のように学んだだけで終わるのではなく、最後に自分たちの取組を考えるような機会をつくりたい(資料有)
- まちづくりについては、視点を地域に絞り込むのもありではないか
- 「みんな」には、一緒に作り上げていくという思いもあるので、地域の中から講師になるような方をみつけていくプロセスも、地域の人たちとできるようにすると良い
- うらわカフェのプログラムを、みんなの学校のプログラムにいれられないか。講座をやって、集まった人で話し合いをして学びの場になっていくと良い
- うらわカフェは1～2か月に一度なので、自分の関心のあるテーマになるまで時間がかかるのではないか。いくつかは最初からつくりたい
- 専科のテーマは、中心となる人がいるものからつくっていくのが良い
 - 健康
 - 福祉、地域福祉
 - 介護
 - 教育
 - 栄養
 - 薬
 - 歴史
 - 資源(ゴミやエネルギー)
 - 防災
 - 育児(育児ママ) などなどがあるのではないか

(3) 今後のスケジュール等

■決まったこと

- ・ 2月末の自治会の回覧等には間に合わせる。2月中旬にはポスターやチラシができていくようにする
 - そのためには1月中に初期の事業内容を決める
- ・ PRは、回覧、チラシ、掲示板。このほかに口コミが何より大事
- ・ コミュニティカフェが増えており、連携するように相談していく。
- ・ **次回は、1月7日（日）17時～ 浦スポ事務所。その後、新年会を近くの店で**

(出された主な意見)

- 口コミが大事。コミュニティカフェなどを中心に協力をもらうと良い。その店舗でもランチ付ゼミとか行われると良い
- カフェにかわいいチラシなどがあると、気に留めてくれる人が増えると思う
- 自治会は、個別になると思われる。自治連の会議で全体に通すのもありだが、賛同を得られるかはわからない
- 社協の中では、まだ認知されていない。取組を始めて知ってもらうのが良いと思う
-

以上

浦和東部地区元気アップネットワーク

第9回 みんなの学校づくりプロジェクト

日時 12月10日（日） 10時～12時頃

場所 浦和スポーツクラブ

1. 開会・あいさつ
2. 自己紹介 . . . 必要に応じて
3. 第8回までのおさらい
4. 意見交換
プログラム
役割分担など
5. 次回の予定
6. 閉会

配布資料

次第

資料—1 構想

過去の資料は。。。

ホームページ <https://genkiupnw.webu.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/genkiup.urawaeast/>



Facebook



ホームページ

浦和東部地区元気アップネットワーク

「みんなの学校」基本構想（案）

1. 名称

「みんなの学校」

2. 背景

私たちの住む地域は、今でも人口が増えており、子どもも、高齢者もとても多い地域です。文教都市で住みやすい地域であると言われており、引っ越してきてよかったという声も多く聞こえてきます。

しかしながら、近年、近隣同士の交流が著しく減少し、独居老人も増える中、将来が不安だという声が多く聞こえるようになってきました。

3. 目的

私たちは、地域の誰もが安心して過ごせる、つながりや優しさを感じる、住んでよかったと誰もが思える地域づくりを目指して、「みんなの学校」を開校します。

4. 基本理念

「共に楽しく、学び合う」

5. 実現のための基本方針

人は他者との関係の中で生きており、全ての人の安全、安心は私たちの喜びです。

私たちが創る“みんなの学校”は、誰も排除せず、誰でも受容し、誰もが尊厳を保証されることです。

ここでは、誰もが学ぶことも、教え合うこともでき、地域のみんなが共に学び合う中で、きずなが生まれていきます。

みんなの学校は、楽しく、優しく、住んでよかったと思える地域づくりを進めます。

6. 事業概要

主に、次の事業をおこなっていきます。

- みんなの教室
- みんなのサークル
- みんなの学校行事
- みんなの環（ネットワーク）づくり

① みんなの教室

- ・ 一緒に調べたり、教え合ったりする学びの場です
- ・ テーマにあわせて講師を招いたり、一緒に調べ合ったりします。
- ・ 地域のこと、社会のこと、健康のことなど、参加者の関心にあわせてテーマを設定します

② みんなのサークル

- ・ 好きなテーマで自主的なサークルをつくり活動します。
- ・ サークルには誰でも参加できます。
- ・ 地域に向けた活動も行います。

③ みんなの学校行事レクリエーション（あそび場）

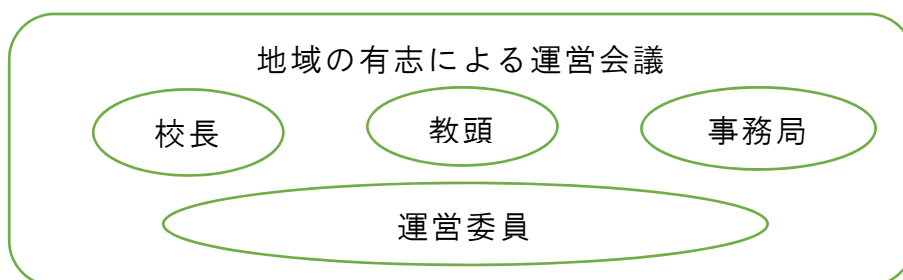
- ・ 教室やサークルを越えて楽しむイベントや発表会を開催します。
- ・ 地域の誰もが参加できるイベント等も開催します。
- ・ お茶会や食事会なども開催します。

④ みんなの環（ネットワーク）づくり

- ・ 地域の既存の団体との連携も図ります。
- ・ この地域の宝ともいえる人材という資源を発掘し、共に活動していきます。

7. 組織

有志による実行委員会を形成して当面は次の役割を整理し運営していきます。活動の広がりにあわせて、学部や学科などを設けていきます。



8. 財源

学費（参加費）

意思ある寄付

その他の資金（補助金、助成金、協賛金など）

浦和区市民活動ネットワークへの登録についても検討していきます。

9. 会場（キャンパス・校舎）

浦和スポーツクラブ

HHC おたっしや倶楽部

ペンギンカフェ

そのほか、公共施設や福祉施設など

将来的には、地域の小中学校の利用についても話し合いを進めます。

10. スケジュール

2017年 10月 基本構想公表
準備委員随時募集
基本計画検討・開校準備

2018年 2月 事業計画・カリキュラム発表・入学者募集開始
4月 開校

以上

みんなで創るうらわ あなたも地域デビュー

【まちづくりコース】

平成30年度 地域の資源（お宝）発見・発掘基礎講座（全12回）（井上試案）

☆開催期間 4月1日（日）～10月00日（ ）

☆開催時間 10:00～12:00 又は13:30～15:30
（2時間のうち、1時間は講義等 1時間は講義の感想発表で意見交換し参加者の交流を図る）

☆開催曜日 隔週 土曜日（例）

☆開催会場 さいたま市浦和区領家4-5-6 石塚ビル 2階（案）
NPO法人浦和スポーツクラブ

☆定 員 20名（案）

☆受講料 6,000円（算出 1回500円）

☆保険料 000円

【講座のねらい】

創年とは、これまでの生き方を見直し地域の為に自らの力を発揮し、創造的に生きる大人（中高年）を呼びます。今、第二の人生を迎え、改めてわがまち「うらわ」を見つめ直し、何か新しい“**生きがい**”や“**やりがい**”を見つめたいと考えている皆さんのための講座です。“まちづくり”に関心と理解を深め、“まちづくり”の基本やうらわの魅力発見などを学習します。この学習を通じて、新しい仲間と交流しながら“**生きがい**”や“**やりがい**”を見出して**創年**になりませんか！！

回	日 程	内 容	講 師
1	4月1日 （日）	みんなの学校入学式 校長 式辞 長寿社会を生き活きと生きる ○参加者同士の交流会（意見交換）	
2		さいたま市の都市計画マスタープランを知る ～将来都市構想～ ○参加者同士の交流会（意見交換）	都市計画課職員 （講話OK）
3		高齢者の生きがい就労支援 ～シルバー人材センター シルバーバンク～ ○参加者同士の交流会（意見交換）	シルバーバンク 事務所（講話OK）
4		地域包括ケアシステムの具体化の現状 ～千葉県柏市の先進事例から学ぶ～ ○参加者同士の交流会（意見交換）	浦和大学教授？
5		高齢者が自立した生活を継続できる地域づくり ～地域福祉の現状と課題～ ○参加者同士の交流会（意見交換）	
6		次代を担う「子ども」の地域支援（その1） ～ファミリーサポートセンター・緊急サポートセンターの取組～ ○参加者同士の交流会（意見交換）	センターの職員？
7		次代を担う「子ども」の地域支援（その2） ～コミュニティビジネスの活用～ ○参加者同士の交流会（意見交換）	NPO子育て応援 クラブむくむく 岡元弘子理事長

8		歴史・文化資産を生かした「まちづくり」 ○参加者同士の交流会（意見交換）	さいたま市史編さん審議会委員
9		コミュニティと自治会の役割を知る ○参加者同士の交流会（意見交換）	浦和区自治会連合会
10		災害・防災と男女共同参画の進め ～災害時こそ互いを思いやり地域防災力の充実を図る～ ○参加者同士の交流会（意見交換）	埼玉県男女共同参画センター職員 （講話OK）
11		誰もが利用できる「わたしたちの居場所」づくり ～ふれあい・いきいきサロンの取組～ ～元気アップサロンの取組～ ○参加者同士の交流会（意見交換）	*埼玉県社会福祉協議会 *元気アップネットワーク
12		地域の循環型社会形成づくり実現に向けて ～リユース、リデュース、リサイクルの具体的な取組～ ○参加者同士の交流会（意見交換）	*市の担当者か *産業廃棄物事業者
13		さいたまの魅力発見（その1） ～さいたま市の名物・特産物や新しい観光の取組を知る～ ○参加者同士の交流会（意見交換）	浦和ガイド会
14		さいたまの魅力発見・見学会（その2） ～名物・特産物や観光スポットなどを見学してさいたま市の資源（お宝）を探す～	浦和ガイド会
15		グループ別課題学習“ワークショップ”（その1） ～さいたまの課題発見とその解決プラン～ ※さいたまのまちを再度見つめ直して地域の資源（お宝）を見つけ出しどのように光をあてるのか	講座スタッフ （ファシリテーター）
16		グループ別課題学習“ワークショップ”（その2） ～さいたまの課題発見とその解決プラン～ ※さいたまのまちを再度見つめ直して地域の資源（お宝）を見つけ出しどのように光をあてるのか	講座スタッフ （ファシリテーター）

基本的な考え方＝力相応、漸進的に進める

○開催会場～年間を通して、継続して確保が出来る事

○開催日を土曜日にする理由～週休2日制が定着し現役の方も参加しやすい状況にある事

○定員を20名に満たない場合～開催する、しない？

○まちづくりコース設置の理由

「専門コース」や「教養コース」は民間や公共機関等で多く行われている事を考慮し、当面は本会の目的にも合致することから「まちづくりコース」を設定する。

○経費～独立採算制とし、別枠で予算を計上する。但し、必要最小額を本会計から支出する。

○受講料の算定～1回あたり500円でどうか

○講師謝礼～1回10,000円でどうか

○入学金の必要性～他大学では殆どない